水田の可能性を考える

11/17　元気な農業を考える集い

安曇野市営農支援センター（手塚博也会長）は11月17日、「元気な地域農業を考える集い」を堀金総合体育館サブアリーナで開きました。

この日は、農業関係者など約70人が参加。「田んぼのエネルギーは無限大」と題して行われたパネルディスカッションでは、現在、世界中で注目されているバイオ燃料の話題を中心に、パネリストが討論をしました。また、今年からバイオ燃料の可能性を探るために、穂高地域で始まった飼料用稲の栽培研究の結果も報告されました。

偽文書から見える歴史に迫る

11／27　安曇野セミナー

市民大学講座安曇野セミナー（第１回）が11月27日、碌山公園研成ホールで行われました。

この日は、信州大学人文学部山本英二准教授を講師に「偽文書が語る日本史」と題した講演が行われました。山本さんは、「東京大学史料編纂所史史料集」から明治22年の静岡・山梨・長野史料採訪復命書を使って、長野県の偽文書の実態や朱印の位置による本物と偽物の見分け方、なぜ偽文書が必要だったのかなどを解説しました。参加者は、偽文書から見えてくる新たな歴史の世界に引き込まれていました。

新たな交流の始まり

11/４～８　クラムザッハ訪問団

市は11月４日、旧豊科町から交流が続くオーストリアのクラムザッハ町との姉妹都市提携書署名式を市内のホテルで開きました。

この日は、平林市長とクラムザッハ町のマンフレッド・シュテーガー町長をはじめ16人の訪問団など関係者約60人が出席。関係者が見守る中、平林市長とシュテーガー町長は、若い世代を中心に両市町がさまざまな分野で交流の推進や住民同士の相互理解に努力するなどを目標とした協定書に署名し、末永い交流を誓いました。

8日まで市内に滞在した訪問団は、市内の中学校や安曇野髙橋節郎記念美術館などを見学したほか、豊科南部保育園の園児たちと豊科南部公園に記念の植樹などを行いました。

また、今回の締結を機に全市的に新たな市民の皆さんによる交流組織を立ち上げる予定です。

故郷の思い 触れてほしい

11/11　熊井啓監督お別れの会

市の名誉市民で、５月に亡くなった映画監督・熊井啓さんのお別れの会が11月11日、豊科公民館で開かれました。

熊井監督は1930年豊科生まれ。日本の暗闇を鋭い感性で問いただす社会派の作品は、国内外で高く評価されています。式では、安曇野映画祭を通じて交流があった市民など350人が参加し、監督との別れを惜しみました。妻の明子さんは「熊井は心の中で生きています。映画を通じて故郷への思いに触れてほしい」と涙ながらも笑顔であいさつしました。

みんなでできることに喜び

10/25　老人クラブ芸能大会･作品展

市老人クラブが発足して初めての開催となる芸能大会と作品展が11月25日、豊科公民館で行われました。

芸能大会では、市内21団体が踊りや大正琴、手品などを披露。約400人が来場した会場からは、盛んに拍手が送られるなど和気あいあいとした雰囲気に包まれました。

会長の斎藤茂昌さんは、「みんなで力を合わせて開催できたことが何より素晴らしい。このことは皆さんの健康維持にも役立つはず」とその輪が広がることを期待しています。

20万球が夜を飾る

11/23～12/24　国営アルプスあづみの公園「森の光物語」

イルミネーションが公園内を彩る「森の光物語」が今年も、国営アルプスあづみの公園で開かれています。

夜の気球搭乗体験などが行われた12月９日、公園内は大勢の家族連れなどでにぎわいました。松本市からカップルで訪れた男性は「初めてきましたが、こんなに飾ってあるとは思いませんでした」と驚いた様子でした。この催しは、12月24日のクリスマスイブまで開かれています。